

# カラー・チルドシアーナのクリプトモスベッド栽培

## 1. 試験のねらい

カラーチルドシアーナは湛水状態で土耕栽培されており、湛水状態での管理作業および収穫作業には多くの労力がかかり高能率生産を妨げている。生産性の向上および高能率生産をはかる方法として、クリプトモスベッドによる養液栽培が考えられる。そのためクリプトモスベッドによる切り花栽培の実用化を検討した。

## 2. 試験方法

チルドシアーナ種を供試した。平成2年5月10日に分球し、育苗後7月10日に4号プラスチック鉢に鉢上げ、9月10日に7号プラスチック鉢に鉢がえし、12月20日にクリプトモスベッドに定植した。巾33cm、高さ25cmのクリプトモスベッドをコンクリート床の上に直接設置し、株間35cmで1条植えた。液肥はOK-F-10(チッソ15%、リンサン15%、カリ15%)750倍液を週1回、株当たり500ml施用した。室温はMin. 15℃、Max. 23℃で管理した。夏は57%遮光の自然換気下で管理した。

## 3. 試験結果および考察

- (1)  $\text{NO}_3\text{-N}$ は樹液では0~5ppm、土壌抽出液ではほとんど検出されなかった(図-1)。  
 $\text{NH}_4\text{-N}$ は樹液では5~18ppm、土壌抽出液では2~8ppmであった(図-2)。 $\text{P}_2\text{O}_5$ は樹液では75~100ppm、土壌抽出液では5~50ppmであった(図-3)。 $\text{K}_2\text{O}$ は樹液では750~2000ppm、土壌抽出液ではほとんど検出されなかった(図-4)。 $\text{CaO}$ は樹液では100~250ppm、土壌抽出液では15~50ppmであった(図-5)。 $\text{MgO}$ は樹液では18~25ppm、土壌抽出液では8~15ppmであった(図-6)。 $\text{EC}$ は樹液では0.38~0.72mS/cm、土壌抽出液では0.2~0.38mS/cmであった(図-7)。
- (2) 生育は極めて順調に推移し、平成4年1月11日現在の草丈は86.2cm、葉数は4.9枚であった。最大葉の大きさは縦35.4cm、横19.8cmであった(表-1)。
- (3) 平成3年4月から平成4年2月までの株当たり採花数は15本であった。6、8、11月は開花しなかった。平成3年12月以降は切花長が長くなり、切花重も重くなって品質が安定してきた(図-8)。

## 4. 成果の要約

カラー・チルドシアーナのベッド養液栽培にクリプトモスは、ロック・ウール代替培地として効率的に利用できることが明らかになった。

(担当者 花き部 岡部陽一)

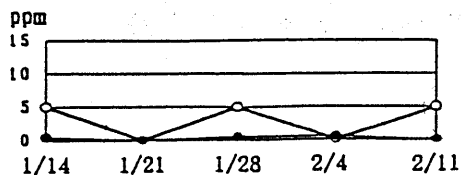


図-1 NO<sub>3</sub>-Nの推移

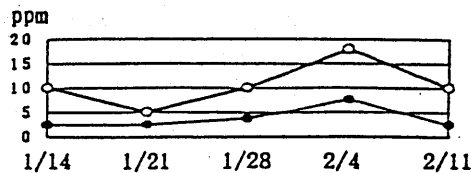


図-2 NH<sub>4</sub>-Nの推移

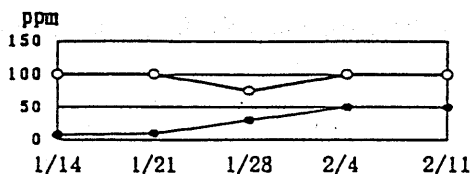


図-3 P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>の推移

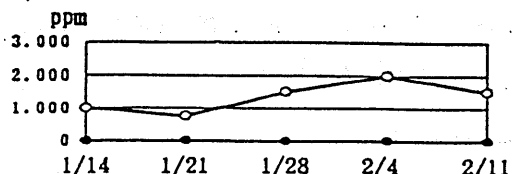


図-4 K<sub>2</sub>Oの推移

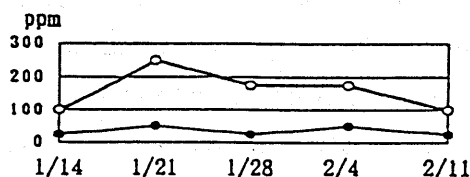


図-5 CaOの推移

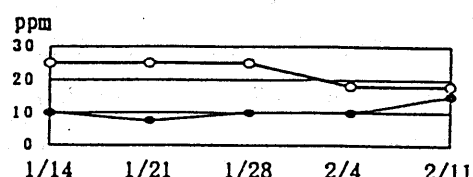


図-6 MgOの推移

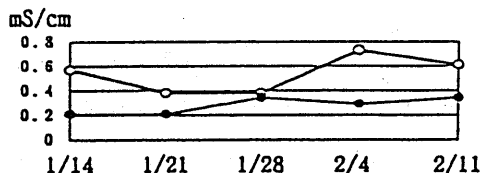


図-7 ECの推移

○ ○ 樹液  
● ● 抽出液

表-1 カラー・チルドシアーナの生育 (平成4年1月11日)

| 草丈<br>(cm) | 葉数<br>(枚) | 最大葉   |       |
|------------|-----------|-------|-------|
|            |           | 縦(cm) | 横(cm) |
| 86.2       | 4.9       | 35.4  | 19.8  |

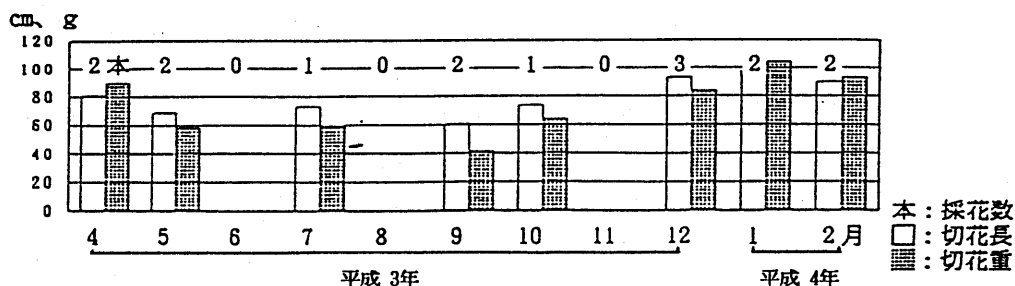


図-8 月別採花数および品質